校　内　研　修　計　画

阿久根市立鶴川内中学校

1　研修主題

自ら学び高め合い，心豊かに，たくましく生きる生徒の育成
～キャリア教育における資質・能力の向上を目指して～

2　主題設定の理由

⑴　今日的課題から

ア　社会の要請・学習指導要領から

人工知能（AI）やビッグデータ，Internet of Things（IoT），ロボティクス等の先端技術が高度化し，あらゆる産業や社会生活に取り入れられる Society5.0 時代が到来しつつある。また，VUCA の時代を迎え，コロナウイルス感染症のため，我々が生活する社会では，様々なことで変革を余儀なく求められ，社会の在り方そのものが劇的に変化すると考えられている。

このような状況の中であっても，生徒が希望をもち，自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくことができる資質・能力を高めていくことは極めて重要である。

例えば，日常の教育活動を通して，学ぶ面白さや学びへの挑戦の意味を子どもたちに体得させたり，生徒が未知の知識や体験に関心をもち，仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して，未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を体得したりすることである。そうすることで，生涯にわたって学び続ける意欲を維持する基盤をつくることができると考えられる。

そこで，学習の場である学校では，社会を担う生徒が社会の一員としての自覚を高め，自分と他者とが共存する力を身に付けることが必要不可欠である。そして，生徒には，変化の激しい社会や人間関係の中で，それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し，社会的・職業的に自立し，社会の中で自分の役割を果たしながら，自分らしい生き方を実現するための力が強く求められている。

このことから，キャリア教育を軸とした教育活動を展開することによって，変化を恐れず，変化に対応していく力と態度を育てることにつながるとともに，自ら学び高め合い，心豊かに，たくましく生きる生徒の育成とそのねらいを共有している。

イ　中学校学習指導要領の内容から

学習指導要領（平成 29 年度改訂）の基本方針には，「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し，連携・協働しながら新しい資質・能力を児童生徒たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し，各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラムマネジメント」の実現を図ることが求められた。学習指導要領改訂の要点は次の通りである。

○　すべての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱から整理された。
○　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが示された。
○　キャリア教育の視点からの小・中・高等学校へのつながりが明確になるように，学級活動に「⑶　１人１人のキャリア形成と自己実現」が新設された。
○　特別活動が学校教育全体で行うキャリア教育の要としての役割を担うことが明確に位置付けられた。
○　学級活動はキャリア教育の要である。

また，図１に示すキャリア教育で育成をめざす「基礎的・汎用的能力」の四つの能力（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）を統合的に捉え，資質・能力の三つの柱に沿って図２のように整理されている。

【人間関係形成･社会形成能力】多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力･協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力
【自己理解･自己管理能力】自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力
【課題対応能力】仕事をする上での様々な課題を発見･分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力
【キャリアプラニング能力】「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択･活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

図１　キャリア教育で育成を目指す「基礎的・汎用的能力」の四つの能力

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
・　学ぶこと･働くことの意義の理解 ・　問題を発見･解決したり，多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ったり，自己の考えを深めて表現したりするための方法に関する理解と，そのために必要な技能 ・　自分自身の個性や適性等に関する理解と，自らの思考や感情を律するために必要な技能	・　問題を発見･解決したり，多様な人々と考えを伝え合って合意形成を図ったり，自己の考えを深めて表現したりすることができる力 ・　自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」をもとに，自分と社会との関係を考え，主体的にキャリアを形成していくことができる力	・　キャリア形成の方向性と関連づけながら今後の成長のために学びに向かう力 ・　問題を発見し，それを解決しようとする態度 ・　自らの役割を果たしつつ，多様な人々と協働しながら，よりよい人生や社会を構築していこうとする態度

図２　キャリア教育における資質・能力

このことから，これまで本校で研究してきた人権教育での取組を基に，三つの柱で整理されたキャリア教育における資質・能力の向上を目指すことにした。

⑵　学校教育目標から

本校の教育目標は『自ら学び高め合い，心豊かに，たくましく生きる生徒の育成』である。この目標を達成するための重点課題を以下に示す

①　基礎学力の定着を図る教育の充実　（「主体的・対話的で深い学び」） ②　人権教育に基づく教育活動の充実 ③　主体性を育てる生徒指導の充実 ④　小中連携や中高連携による特色ある教育活動の推進 ⑤　体力の維持向上と健康の保持増進 ⑥　キャリア教育の充実と夢実現を見据えた進路指導の充実・計画的な指導 ⑦　環境教育の充実(カスミサンショウウオ保護観察の継続)の７項目を揚げている。

このことから，主体性を育てる特別活動をふくめた生徒指導の充実と，基礎学力の定着を図るための教科の授業改善（主体的・対話的で深い学び）とキャリア教育に関わる資質・能力。総合的な学習の時間の活動の３つを柱として，キャリア教育の視点から様々な教科とのカリキュラムマネジメントを行った。

⑶　本校の実態から

鹿児島定着度調査や，標準学力検査などの学力調査，またキャリア教育に関するアンケートから，本校の生徒の課題として，主体性や，読解力と表現力，課題対応能力などに課題が見られることが挙げられる。

令和4年度 2年生

	全生徒			報告生徒			全生徒	
	本校結果	誤答率	無答率	報告値	県暫定値	県差	本校 知識・技能	本校 思考・判断・表現
国語	56.9	34.3	8	62.3	71.0	−8.7	55.8	57.6
社会	41.4	51.8	6.7	44.0	55.2	−11.2	41.7	40.7
数学	69.6	24.5	5.8	75.6	72.5	+3.1	82.6	50.0
理科	68.5	29.7	1.8	71.5	62.5	+9.0	73.9	58.3
英語	59.3	34.2	6.4	64.5	67.8	−3.3	69.8	42.5

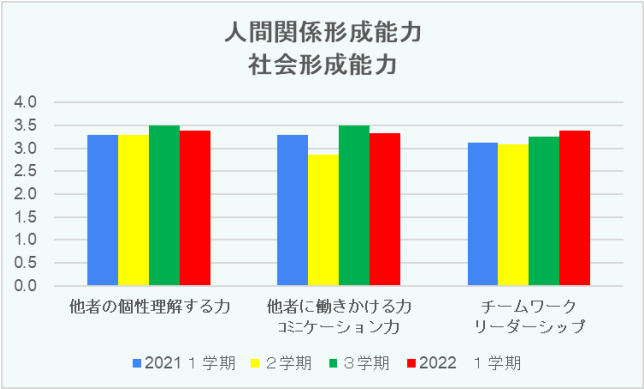
令和４年度　１年生

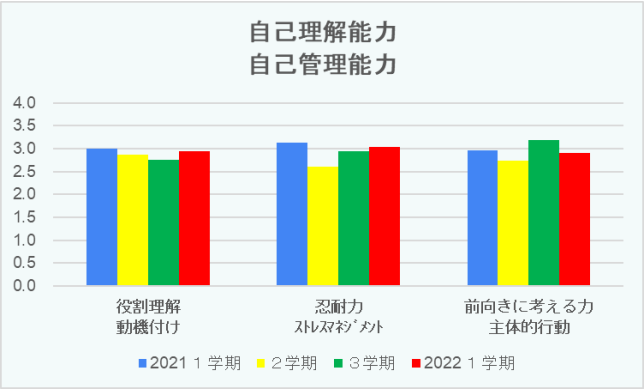
	全生徒			報告生徒			全生徒	
	本校結果	誤答率	無答率	報告値	県暫定値	県差	本校 知識・技能	本校 思考・判断・表現
国語	66.7	16.6	16.7	91.7	70.4	+21.3	72.7	61.5
社会	61.7	23.4	14.8	83.3	68.4	+14.9	68.5	48.1
数学	66.7	5.2	28.1	94.7	70.9	+23.8	69.4	61.9
理科	58.3	36.1	5.6	81.3	63.2	+18.1	57.8	59.3
英語	59.4	11.5	59.0	87.0	75.7	+11.3	54.8	66.7

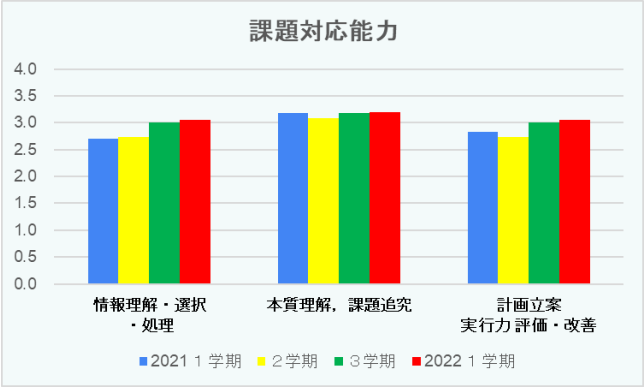
領域別正答率（全生徒）

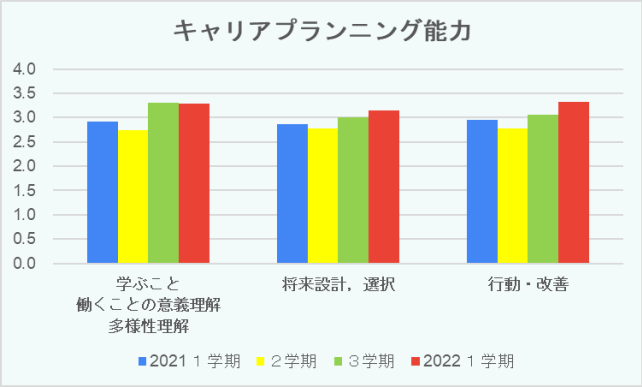
中２				中１			
国語		正答率	正答数/受験数	**国語**		正答率	正答数/受験数
	話すこと・聞くこと	50.0 %	35/70		話すこと・聞くこと	50.0 %	6/12
	書くこと	44.6 %	25/56		書くこと	66.7 %	8/12
	読むこと	70.4 %	69/98		読むこと	66.7 %	10/15
	知識・技能	55.8 %	86/154		知識・技能	72.7 %	24/33
社会				**社会**			
	日本の地域構成	62.5 %	30/48		世界の地域構成	50.0 %	6/12
	日本の地域的特色	48.3 %	29/60		世界各地の人々の生活と環境	50.0 %	6/12
	日本の諸地域	58.3 %	35/60		世界の諸地域	66.7 %	12/18
	近世の日本	25.6 %	40/156		歴史のとらえ方	88.9 %	8/9
					古代までの日本	60.0 %	18/30
数学							
	数と式	75.0 %	63/84		数と式	76.2 %	16/21
	図形	63.3 %	38/60		図形	66.7 %	10/15
	関数	68.3 %	41/60		関数	66.7 %	8/12
	資料の活用	69.4 %	25/36		データの活用	44.4 %	4/9
理科							
	エネルギー	80.6 %	29/36		エネルギー	72.2 %	13/18
	粒子	73.8 %	62/84		粒子	59.3 %	16/27
	生命	65.3 %	47/72		生命	50.0 %	9/18
	地球	60.7 %	51/84		地球	44.4 %	4/9
英語							
	聞くこと	59.5 %	50/84		聞くこと	53.3 %	16/30
	話すこと	59.3 %	64/108		話すこと	50.0 %	15/30
	読むこと	68.3 %	82/120		読むこと	66.7 %	16/24
	書くこと	46.7 %	50/108		書くこと	61.1 %	9/15

上述した⑴～⑶の根拠を基に，本校では，キャリア教育を軸とした教育活動を展開し，各活動を充実させ，生徒のキャリア教育における資質・能力の向上を目指すことで，「自ら高め合い，心豊かに，たくましく生きる生徒の育成」を図ることにした。









上図は，令和３年度，４年度の本校のキャリア教育で育成を目指す「基礎的・汎用的能力」の四つの能力における結果である。

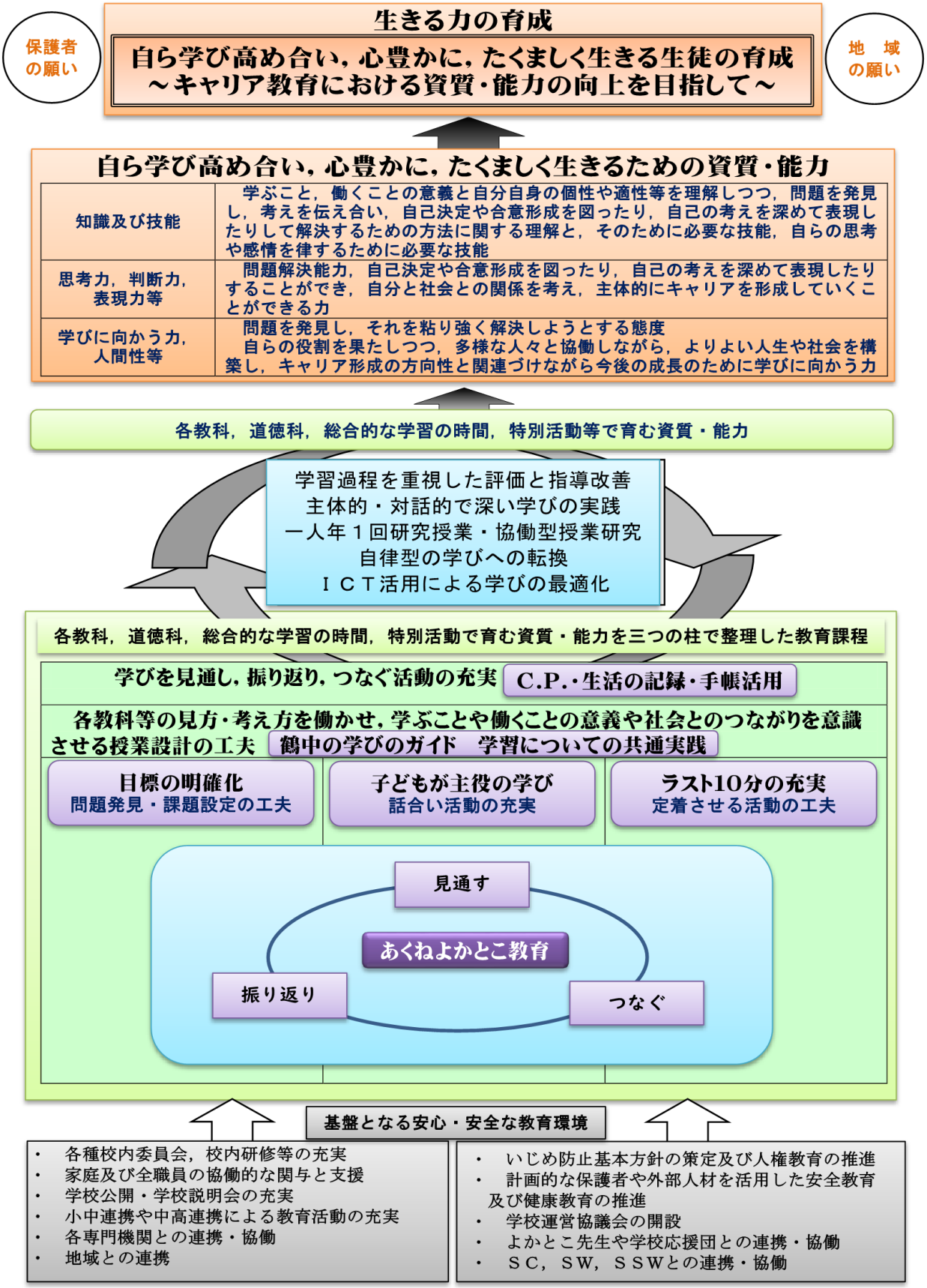
一つめは，「課題対応能力」及び「キャリアプランニング能力」において高まりが見られた。スコラ手帳を活用することで，ロードマップ（目標達成のための行程）やマイルストーン（中間目標）を設定しやすくなったことが挙げられる。二つめに，「人間関係形成能力・社会形成能力」においては，高い水準で推移した。このことは，基盤として，伝統的に自主的，実践的な課題解決型の集団活動を充実させ，生徒主体の自発的，自治的な学校づくりを行っていることが挙げられる。

課題として，「自己理解能力・自己管理能力」について高まりがみられなかった。

3　研究の仮説

これまでの教育活動を基に，各活動の充実を進めていくことにより，教職員や生徒一人一人が個性を発揮しながら，見通し，振り返り，つなぐ活動をキャリア形成のために主体的に活動に取り組み，自ら学び高め合い，心豊かに，たくましく生きる生徒の育成につながっていくのではないか。

4　研究構想図

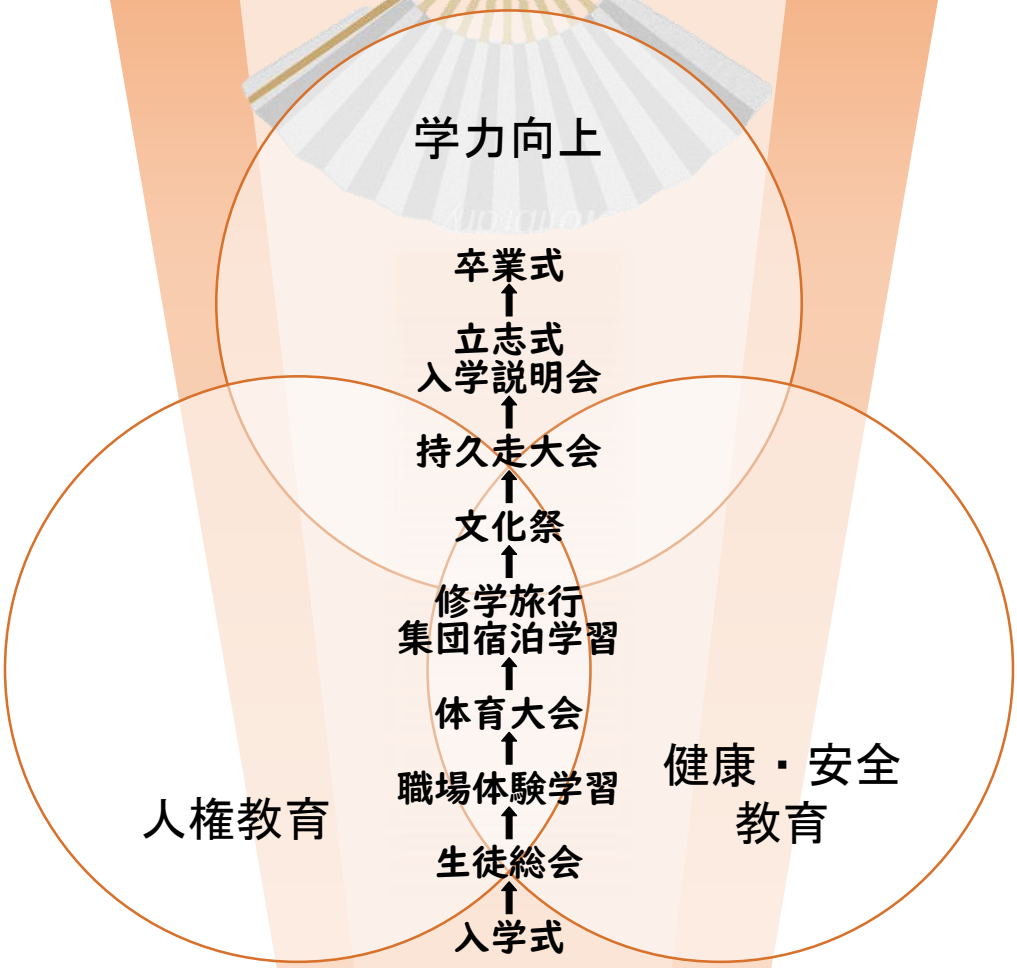


気品があり，清潔で活力のある学校

自ら学び高め合い，心豊かに，たくましく生きる生徒

問題解決能力の高まり

生き方を考えるキャリア教育
あくねよかとこ教育



校訓	１年	２年	３年
自主 思考	よく考え，物事を正しく判断し，自ら学ぶ生徒	自ら見通しをもって主体的に学ぶ生徒	自分の個性や適性を生かして主体的に学ぶ生徒
自律 誠実	相手の立場になって考え，身の回りの人を大切にする生徒	地域の人やふるさとと豊かに関わる中で，互いのよさを認める生徒	人や社会と豊かに関わり，多様な価値観を認め，地域社会に貢献する生徒
協調 鍛錬	基本的生活習慣を確立し，自分の目標に向かって，粘り強く頑張る生徒	人や社会と豊かに関わり，多様な価値観を認め，地域社会に貢献する生徒	心身共に健康で，高い目標に向かって，常に工夫改善し，進化し続ける生徒

職責感旺盛で実践する教職員

一家庭一家訓で凛とした家庭

人間性のある信頼される教職員
生徒のよさに気付く教職員
生徒の可能性を伸ばす教職員
自己研鑽に励む教職員

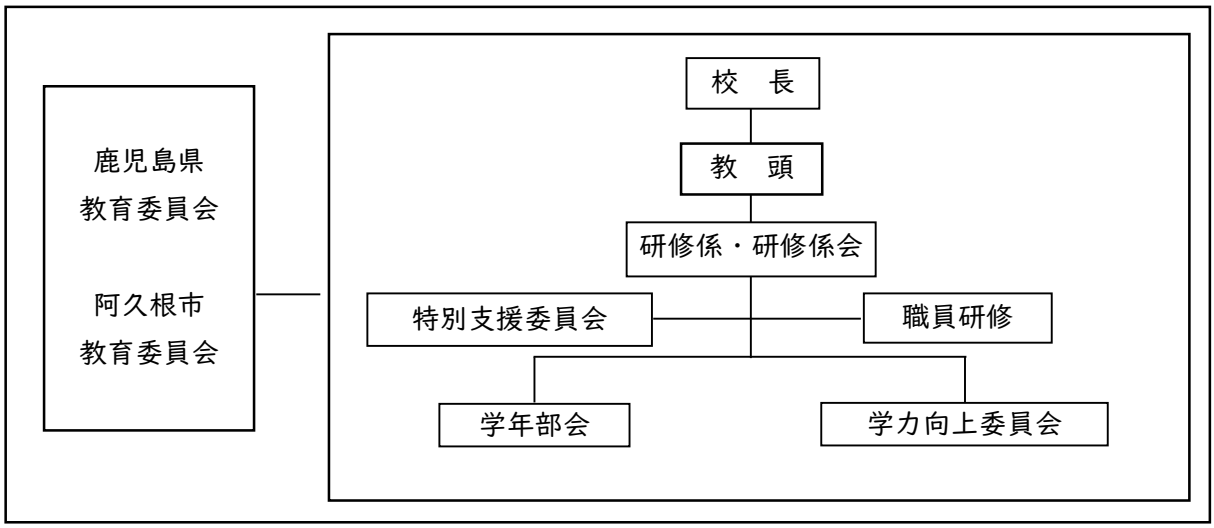
生徒の実態

社会の実態

心も体も安らぐ家庭
進路実現を支え育む温かい家庭
しつけやルールを学ばせる家庭
耐性と思いやりを育む家庭

5　研究体制

⑴　研究組織



⑵　研究内容

ア　学校教育全体を通して，共に協力し合いながら目的を達成していくような体験を通して，資質・能力の育成を図る。（総合的な学習の時間，人権学習，学級活動，話合い活動の取組など）

イ　各専門部や係，学校行事などで一員として役割を果たし，成功体験を味わわせることで，資質・能力の育成を図る。（特別活動，生徒会，学級活動，学級経営，学校行事）

ウ　主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善にて，学校と家庭が連携して生徒を認め励ましながら資質・能力の育成を図る。（1 人 1 回の研究授業，協働型の授業研究，課題解決型の学習）

⑶　検証授業及び授業研究

ア　鶴中学力向上委員会において検証授業を計画する。

イ　計画を基に全員が研究授業を行い，授業研究の中で研究を深める。

ウ　できるだけ外部講師を招聘し，研究を深める。

エ　検証授業指導案は事前に作成し，必要に応じ指導案検討を行い，検証授業に活かす。

オ　職員による授業参観，授業研究への参加，意見交換の実施。

カ　年間一回は全員で授業を参観し，授業研究を行う機会を設ける。

⑷　研究時間の確保

ア　夏季休業中に研修日を設定する。

イ　各種研修等に参加した場合は，資料等を持って報告し，情報を共有する。

⑸　研修内容の充実

ア　校外での研修に積極的に行う。

イ　関係機関との連携を積極的に行う。

ウ　対話のさせ方など，教科横断的に言語活動の充実に関しても研修を深めていく。

エ　ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて，ＩＣＴ機器の扱いに関する研修を深めていく。

オ　教科横断的な視点を身につけるためにも，他教科の先生の授業にも自由に参観していい雰囲気づくりを行い，ＩＣＴ機器の扱いや，言語活動の充実など優れた実践を共有する。

6　令和５年度研修計画

テーマ『自ら学び高め合い，心豊かに，たくましく生きる生徒の育成』　＊講師の都合で変更有

月	日	曜	主な研修内容	担　当	備　考
4	4	火	・安全点検(全体) ※複数で点検	安全指導係	危険個所点検
	4	火	・ICTに関する研修①(持ち帰り等について)	情報教育係	
	4	火	・危機管理マニュアルに関する研修	安全指導係	管理ﾏﾆｭｱﾙ確認
	5	水	・生徒指導・特別支援教育に関する研修①	生徒指導	生徒理解,服装,いじめ問題等
			(共通理解,特別支援教育も含む)	特別支援教育係	
	5	水	・年間研修計画の検討・確認	研修係	研修計画の確認
	5	水	・服務規律についての研修	管理職	服務に関して
	17	月	・交通安全対策に関する研修(生徒合同の研修)	安全指導係	交通安全教室
	18	火	☆第１回学力向上(学習指導)に関する研修	学力向上委員会	
	20	木	・特別支援教育に関する研修②(生徒理解)	特別支援教育係	
5	8	月	・人権同和教育に関する研修Ⅰ	人権同和教育係	
			(なくそう差別読み合わせ,人権同和教育週間について)		
	15	月	・カリキュラムマネジメントに関する研修Ⅰ	研修係	別葉作成
	25	木	・研究授業,協働型授業研究①	学習指導係	講師招聘
6	1	木	☆第2回学力向上(学習指導)に関する研修	学力向上委員会	
	5	月	・人権同和教育に関する研修Ⅱ(人権週間に向けて)	人権同和教育係	授業案作成
	8	木	・研究授業,協働型授業研究②	学習指導係	講師招聘
	12	月	・評価(通知表等)に関する研修 (観点・評定)	調査・統計係	
	22	木	・カリキュラムマネジメントに関する研修Ⅱ	研修係	別葉作成,教科の決定
	27	火	・不審者対策研修(生徒合同の研修)	防火防災係	講師招聘
	29	木	・ICTに関する研修(ロイロで成績処理)	情報教育係	オンライン研修
7	3	月	・研究授業,協働型授業研究③	学習指導係	講師招聘
	6	木	☆第3回学力向上(学習指導)に関する研修	学力向上委員会	
			・命の教室(SOSの出し方に関する教育)	生徒指導係	生徒合同の研修(講師招聘)or指導案作成
	19	水	・ICTに関する研修(授業デザイン)	情報教育係	オンライン研修
8	1	火	・キャリア教育に関する研修orICTに関する研修	ｷｬﾘｱ教育or情報教育係	
	1	火	・危険箇所点検(校区の確認)	防火防災係	校区内危険箇所点検
	21	月	・キャリア教育に関する研修(カリキュラムマネジメント)	研修係	講師招聘
	31	木	・パワハラ,セクハラ防止に関する研修	管理職	
9	21	木	☆第4回学力向上(学習指導)に関する研修	学力向上委員会	
	25	月	・研究授業,協働型授業研究④	学習指導係	講師招聘
	26	火	・カリキュラムマネジメントに関する研修Ⅲ	研修係	授業案作成
10	5	木	・カリキュラムマネジメントに関する研修Ⅳ	研修係	授業案作成
	12	木	・研究授業,協働型授業研究⑤	学習指導係	講師招聘
	16	月	☆第5回学力向上(学習指導)に関する研修	学力向上委員会	
11	13	月	・人権同和教育に関する研修Ⅲ(人権週間に向けて)	人権同和教育係	授業案作成
	16	木	・研究授業,協働型授業研究⑥	学習指導係	講師招聘
12	5	火	・研究授業,協働型授業研究⑦	学習指導係	講師招聘
	12	火	☆第6回学力向上(学習指導)に関する研修	学力向上委員会	
	14	木	・教育課程編成① (本年度の反省等)	教務主任	
1	5	金	・教育課程編成② (年間行事予定)	教務主任	
	5	金	・鹿児島学習定着度調査(集計方法と分析方法の確認)	調査・統計係	
	16	火	・カリキュラムマネジメントに関する研修Ⅴ	研修係	年間反省
	22	月	・研究授業,協働型授業研究⑧	学習指導係	講師招聘
	25	木	☆第7回学力向上(学習指導)に関する研修	学力向上委員会	
	30	火	・教育課程編成③(各領域等部会)	教務主任	
2	13	火	・教育課程編成④ (各領域等部会)	教務主任	卒業判定会後
	14	水	・教育課程編成⑤ (各領域等部会)	教務主任	学年末テスト午後
	15	木	・教育課程編成⑥ (年間行事予定)	教務主任	学年末テスト午後
	26	月	・教育課程編成⑦ (年間行事予定)	学力向上委員会	職員会議後
	27	火	☆第8回学力向上(学習指導)に関する研修	教務主任	
3	4	月	・次年度研修計画について	研修係	
	11	月	・教育課程編成⑧ (年間行事予定,次年度計画)	教務主任	

7　テーマ研修　「キャリア教育における資質・能力の向上を目指して」に関する今年度の目標

【人】人間関係形成･社会形成能力　【自】自己理解･自己管理能力　【課】課題対応能力

【キ】キャリアプランニング能力

教科	今年度の目標	努力点
国語	･社会生活に必要な国語について,その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ･社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め,思考力や想像力を身につける。 ･言葉がもつ価値を認識するとともに,言語感覚を豊かにし,我が国の言語文化に関わり,国語を尊重してその能力の向上を図る態度を身につける。	･リーリングスキル,論理的思考力を育成する教材に取り組み,目的に応じて必要な情報を読み取り自分の考えをまとめる時間を設定する。【キ】 ･詩歌,物語の創作や意見文,評論文,手紙など様々な形態の文章を書く時間を設定する。【課】 ･感想や作品の交流や話合い活動を通して,自分の意見を伝え,考えを広げたり深めたり,互いに助言しあいながら考えを共有する時間を設定する。【人】【自】
社会	・我が国の国土と歴史，政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・社会的事象の特色や社会に見られる課題の解決に向けて多面的・多角的に考察できるようにする。 ・社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	･様々な情報や資料を読み取ったり,調べ学習を行ったりする場を設定する。【課】 ･課題解決に向けて,既習内容を関連づけて,自分の考えを発表する場を設定する。【自】【キ】 ･話し合い活動を通し,他者と考えを共有しながら自分の考えを広げたり深めたりする場を設定する。【人】
数学	･数量や図形などについての基礎的な概念や原理･法則などを理解するとともに,事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現･処理したりする技能を身に付けるようにする。 ･数学を活用して事象を論理的に考察する力,数量や図形などの性質を見いだし統合的･発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔･明瞭･的確に表現する力を養う。 ･数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え,数学を生活や学習に生かそうとする態度,問題解決の過程を振り返って評価･改善しようとする態度を養う。	･自力解決を促すための発問や社会と関連した教材の工夫。【課】【キ】 ･計算ドリル等の継続と主体的に課題を発見,解決しようとする家庭学習の推奨。【自】 ･多様な意見を取り入れるために,小黒板やタブレットの効果的な活用。【人】
理科	・ 自然の事物･現象についての理解を深め,科学的に探究するために必要な観察,実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・ 観察,実験などを行い,科学的に探究する力を養う。 ・ 自然の事物･現象に進んで関わり,見方･考え方をはたらかせて科学的に探究しようとする態度を養う。	・ 適切な場面で ICT 機器を活用することで、知識と思考を深めさせ、プレゼンテーションや仲間と共有する機会を増やす。【課】【自】【人】 ・ 探究的な学習に取り組むことを通して、課題解決までの見通しをもたせ、計画的に取り組ませる。【キ】 ・ 単元の最後で、学習内容が自らの生活や社会にどのように関わっているのか自分の言葉でまとめる活動を取り入れ、仲間と共有する。【人】【課】
英語	･英文を聞いたり読んだりして,必要な情報を捉えたり,物語などの概要を捉えたり,説明文などの要点を捉えたりすることができるようにする。 ･簡単な語句や文を用いて即興で伝え合ったり,正確に書いたりできるようにする。 ･事実や自分の考え,気持ちなどを整理し,簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話したり書いたりできるようにする。 ･聞いたり読んだりしたことについて考えたことや感じたことを,その理由などを述べ合ったり,書いたりできるようにする。	･視聴覚機器やソフトウェアを効果的に活用し,生徒が自らの学習進度に合わせて学習したり,自己の課題に応じた英語学習の取り組み方を工夫しようとする。【課】【自】 ･自分の考えを発表したり、相手と対話したりして,プレゼンテーション能力や実践的なコミュニケーション能力をつける言語活動を行う。【人】【自】 ･自己評価カードやスコラ手帳にふり返りや今後の見通し,目標を書かせる。【キ】【自】

音楽	・音楽活動を通して，音や音楽への興味・関心を高める。 ・生活や社会の中の音や音楽、世界や日本の音楽文化を理解し，生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を養う。	・グループ活動や個人での発表の場を設定する。【人】 ・ICT を活用した授業の展開や振り返り。【課】 ・音楽を鑑賞し，曲の背景や感想をまとめることや，曲想を感じ取り，思いや意図をもって表現する。【人】【課】 ・様々な音楽に触れる機会を増やす【自】【キ】 （長期休業中の課題の活用）
美術	・お互い出来上がった作品を見合う，鑑賞活動の充実を図っていく。その中で，相手の立場に立った評価，反省を含む意見の交換をする。	・限られた授業時数の中で，出来るだけ製作スピードを合わせ，鑑賞の時間を確保する。【課】
保体	・運動の特性に応じた技能等及び健康・安全について理解し，基本的な技能を身に付ける。 ・自他の課題を発見し，合理的解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を身に付ける。 ・生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かな生活を営む態度を身に付ける。	・学習カードやスコラ手帳を利用し，互いの成長をより具体的に実感させる。【人】【自】 ・「する・みる・支える・知る」の視点から運動やスポーツを捉えることができるようにする。【自】 ・適当な場面でICT機器を活用することで，思考を深め，自分の考えを説明することや，仲間との話合い活動を充実させる。【課】【キ】
技・家	・生活と技術についての理解を図り，技能を身に付ける ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，表現するなど，課題を解決する力を身に付ける。 ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。	・自分や家族が生活する上で直面する問題の解決に向けた課題設定の工夫を行う。【人】【課】 ・仕事の楽しさや完成の喜びを味わわせるために，実践的・体験的な活動の内容を工夫することで，将来の職業の選択につなげる。【自】【キ】 ・適当な場面でICT機器を活用することで，自ら問題を見いだして課題を設定し，解決を図る問題解決的な学習を充実させる。【自】【課】